

大杉谷国有林からの手紙

8通目 ～皆さん、ありがとうございました～

今年の9月は大型台風が日本各地に上陸し大きな被害をもたらしたり、秋雨前線による長雨が続いたり、なかなか秋晴れになりません。しかし、大杉谷では木々の葉が徐々に色づきはじめ、少しずつですが、確実に季節の歩みを秋に向けて進めています。

そんな中、今回は、森林ボランティア活動について報告します。

この活動は、「皮剥防止用ネットの取付作業などの樹木保護活動をとおりてニホンジカ被害の実態と樹木保護の重要性」を皆さんに知ってもらおうと、平成12年度から実施しています。

今年度は、8月11日が山の日に制定されたこと、吉野熊野国立公園が指定されてから80周年になることを記念し、環境省近畿地方環境事務所と三重森林管理署の共催



で「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」として、9月24日（土）に実施しました。

今回の募集にも、地元の三重県や奈良県をはじめ、大阪府、京都府、和歌山県、遠くは静岡県からもご応募頂き総勢28名の皆さんが、樹木保護活動のために集結しました。

しかし当日は、日本有数の多雨地帯である大台ヶ原の本領発揮で、集合の時間が近づくと雨が強くなり、加えて、時折、雷が鳴るなど生憎の天気となったことから、予定していた正木ヶ原周辺での作業は取りやめとなりました。



そこで、急きょ予定を変更し、午前中は、大台ヶ原物産店の2階をお借りして、林野庁と環境省が実施している自然再生の取組についての紹介、大杉谷の自然に長年携わっておられる大杉谷登山センターの森正裕さんに宮川源流の魅力や歴史、山との付き合い方についてのお話を伺う学習会となりました。

特に、森さんからは、大杉谷の渓流に棲むヤマセミが胸の羽を疑似餌にして、魚を捕るなどの貴重なお話を聞くことができ、ある意味、恵みの雨となりました。



午後は、ようやく雷もおさまり、雨が小降りになってきたことから、ビジターセンター近くの林で環境省さんの指導のもと、トウヒに皮剥防止用ネットを取付ける作業を行いました。その中で、同じ取付け作業でも、私達とやり方と違うことを発見、良いところはどんどん取り入れたいと思いました。

作業後は、苔探勝路を歩いて防鹿柵内での植生回復状況の観察会を行いました。防鹿柵により後継樹が育つなど植生が回復している

一方、ササが繁茂し、稚樹の刈り出し作業が必要になっているとの説明がありました。

昨年のように雲一つ無い快晴の中で、樹木保護活動に汗を流してもらうことができなかったのは、本当に残念でしたが、参加者の皆さんには、勉強会と観察会に積極的に参加してもらい、いつもと違う貴重な時間を過ごしていただけたものと思っております。

参加者の皆さんからは・・・

「普段の登山の時には、意識していなかったですが、防鹿柵の中に入り、その効果を目にすることができて良かった」、「自分が巻いたネットで木々を守るのだと思うとうれしくなる、来年もぜひ参加したい」、「森さんのお話で、大杉谷の自然の素晴らしさとそこに古くから関わっていた人の存在を知ることができたような気がします」、「こうやって森林ボランティアに参加して、自分にもなにかができるのだなと感じました」との声をいただきました。

皆さんの声を聴き、今後とも、多くの皆さんと協力しながら、大台ヶ原、大杉谷国有林の素晴らしさを未来につないでいかなければいけないと決意を新たにしましたところ です。

来年も「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を実施します。今回の手紙を読んで少しでも興味を持ったあなた、ぜひ来年は、参加してみませんか。大杉谷でお待ちしています。



(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)